

9:27 ユダの王アハズヤはこれを見ると、ベテ・ハ・ガンの道へ逃げた。エフーはその後を追いかけて、「あいつも討ち取れ」と叫んだので、彼らはイブレアムのそばのグルの坂道で、車の上の彼に傷を負わせた。それでも彼はメギドに逃げたが、そこで死んだ。

9:28 彼の家来たちは彼を車に乗せて、エルサレムに運び、ダビデの町の彼の墓に先祖とともに葬った。

9:29 アハズヤはアハブの子ヨラムの第十一年に、ユダの王となっていた。

9:30 エフーがイズレエルに来たとき、イゼベルはこれを聞いて、目の縁を塗り、髪を結び直して、窓から見下ろしていた。

9:31 エフーが門に入って来たので、彼女は「お元気ですか。主君殺しのジムリ」と言った。

9:32 彼は窓を見上げて、「だれか私にくみする者はいないか。だれかいらないか」と言った。

二、三人の宦官が彼を見下ろしていたので、

9:33 彼が「その女を突き落とせ」と言うと、彼らは彼女を突き落とし、彼女の血が壁や馬にはねかかった。エフーは彼女を踏みつけた。

9:34 彼は中に入って食べたり飲んだりし、それから言った。「あののろわれた女の世話をしなさい。彼女を葬ってやれ。あれは王の娘だから。」

9:35 彼らが彼女を葬りに行ってみると、彼女の頭蓋骨と両足と両手首しか残っていなかった。

9:36 帰って来てエフーにこのことを知らせた。するとエフーは言った。「これは、【主】がそのしもベティシュベ人エリヤによって語ら



れたことばのとおりだ。『イズレエルの地所で犬がイゼベルの肉を食らい、

9:37 イゼベルの死体は、イズレエルの地所で畑の上にまかれた肥やしのようになり、だれもこれがイゼベルだと言えなくなる。』」

アハズヤは南王国すなわちユダヤの王で、北王国すなわちイスラエルとは分裂した関係です。しかしここで北のイスラエルの王と親交があるのは、実はアハズヤがイスラエル王であったアハブの娘を妃として受け入れたからです。すなわちアハブの妃であるイゼベルとも、アハブの息子であるヨラムとも親戚なのです。

それで北と南とは交流ができて表面的には良いように見えますが、信仰的には問題でした。つまりアハブもイゼベルも、邪教に仕えてイスラエルに混乱と不信仰を招き入れた王家であったからです。神様に反逆するような同盟は、続かないのです。アハズヤはその同盟ゆえの戦いで、死ぬことになってしまいました。

一方イゼベルは、夫アハブから息子のヨラムに王位が移ってからも、権力の座にいたようですが、実際には家臣の心は離れて、このときには2~3人の宦官しかいなかったようです。または他にも彼らが突き落とすのを阻止しなかったということでしょう。

「ジムリ」とは謀反で権力に着いた後、7日で殺された人物であり、どうせエフーもそのようになるのだと高をくくっていましたが、その目論見ははずれました。単に権力の座にいるからということで、神を無視して自分中心を続ければ、人心は離れてゆくのです。その末路はすでに神様によって予告されていたことであり、悲惨なものでした。

ヨラムのように保身のために神をないがしろにするようなことがないように、心を覚ましましょう。自分に力や影響力があるなら尚のこと、

謙遜になって主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

